

単元名

のりものはかせになって「はたらくのりもの」クイズ大かいをしよう
(いろいろなふね)

男子 14名 女子 9名
計 23名

1 単元のデザイン

単元について

- 本単元は、小学校学習指導要領国語内容C(2)ウ「文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。」を受けて設定されたものである。
- 本教材「いろいろなふね」は、特徴的な機能をもった4種類の船を例として取り上げ、役目や構造、装備などについて説明した文章である。4種類の船の例示が同じ文章構成、同じ文型で説明されており、叙述に即して内容を正確に捉えることに適した教材である。
- 図鑑やカードなどの文章の中から必要な語句を選び、相手に分かりやすく伝え合わせる活動を通して、本校で育成を目指す資質・能力を育むことができる。

児童の実態

- 本学級の児童は、これまで、教材「どうやってみをまもるのかな」において、文章のまとまりごとに内容を読み取り、大事な言葉を選び出す学習をしている。単元終了時のテストで8割以上取ることができた児童は70%だった。
- 文章中の大事な語句に丸印を付けたり、線を引いたりして、交流する学習を通して、大事だと思った理由を述べたり、絵と文章を結び付けて情報と情報との関係を話し合ったりすることができるようになってきている。しかし、文章の中から大事な語や文を正しく抜き出すことができない児童が3割近くいる。さらに、その児童の多くは、自分から本や図鑑を開いているが、絵を見ており、情報を正確に読み取っていない様子である。

パフォーマンス課題について

- 本単元では、生活の中で活躍している「働く乗り物」について調べ、年長児童にクイズを出すという課題解決的な思考を育てるパフォーマンス課題を設定した。年長児童という相手意識を明確にもたせることで、相手に分かりやすく説明し、楽しくクイズに参加してもらえるような発表の工夫を考えさせることができる。この時期の児童が興味をもつと考えられる「働く乗り物」を題材に、その「役目」、「つくり」、「できること」をまとめ、クイズを作り発表する活動は、児童の意欲を高め主体的に学習に取り組める課題である。また、分かりやすく発表するためには、本や図鑑の中から必要な語や文を考えて選び出す必要があり、共通点や相違点を見付けながら、分かったことをまとめることで、思考力や判断力が育成され、相手意識をもって分かりやすく紹介することで、表現力が育成されると考える。

思考を深める指導のポイント

- 教材文に出てくる船の内容を、思考の型を用いながら読み取り、「いろいろなふね」には違う役目がある、それぞれの役目に合うつくりになっていることを捉えさせる。教材文の大切な言葉を正しく選び出すことができるようにするために、始めは大切な言葉を白抜きにし、本文から探して抜き出すワークシートを使用し、本文の大切な言葉に着目できるようにする。また、見付けた大切な言葉を絵と関連付けて考えることで、より深い読み取りをさせる。そして、徐々に文章から「役目」、「つくり」、「できること」を見付けて、絵と関連付けながら自分で大切な言葉を選び出すことができるようにしていく。実際に図鑑からカードを作っていくときは、初めは、全体で同じ図鑑を見て大切な言葉を見付け、自分で付箋に抜き出させる。それから、グループで見付けた言葉を関連付け、図鑑の絵とつなげながら、その言葉が本当に大切な言葉であるか、より深く考えさせていく。

2 単元の目標

- ・乗り物の共通・相違・事柄の順序などの情報と情報との関係について理解することができる。
【知識及び技能】
- ・乗り物の「役目」、「つくり」、「できること」を文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。
【思考力、判断力、表現力等】
- ・言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。
【学びに向かう力、人間性等】

3 単元の評価規準

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	①乗り物の共通点や相違点など、情報と情報の関係を理解している。	①「読むこと」において、乗り物の「役目」、「つくり」、「できること」などの文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。	①進んで本や図鑑から乗り物を探して読書を楽しみ、調べたことを相手に分かりやすく伝えようとしている。

4 単元計画（全14時間）

次	時	学習内容	評価規準（評価方法）		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
一	1	<p>教師が働く乗り物の絵本の読み聞かせを行い、働く乗り物について興味をもたせる。</p> <p>教師が乗り物博士になって、働く乗り物クイズをする。</p>			
	2	パフォーマンス課題を設定し、学習計画を立てる。			
二	3	<p>教材文「いろいろなふね」を読んで、どんな船が出てくるのかを確かめる。</p>	◎知①（ノート分析）		
	4	<p>「きやくせん」の内容を読み取り、カードにまとめる。</p>		○思①（乗り物カード）	
	5	<p>「フェリーボート」の内容を読み取り、カードにまとめる。</p> <p>比較する</p>		○思①（乗り物カード）	
	6	<p>「ぎよせん」の内容を読み取り、カードにまとめる。</p> <p>比較する</p>		○思①（乗り物カード）	
	7	<p>「しょうぼうてい」の内容を読み取り、カードにまとめる。</p> <p>比較する</p>		○思①（乗り物カード）	

三	8	整理・分析	「いろいろなふね」で学習したことをまとめ、文章全体の構成を捉える。 今まで学習した4つの船の特徴をまとめる。 比較する 関連付ける	◎知①(ワークシート)			
	9 (本時)		まとめ・創造・表現	図鑑から「ポンプ車」の内容を読み取り、カードにまとめる。 比較する 関連付ける		◎思①(乗り物カード)	
	10・11			図鑑やカードから、自分で働く乗り物を1つ選び、内容を読み取り、乗り物カードにまとめ、クイズを作る。		◎思①(乗り物カード・クイズ)	○態①(行動観察)
四	12	実行	パフォーマンス課題に取り組む。 ・クラスで乗り物クイズ大会を開く。 ・より良いクイズにするための手立てを話し合う。		◎思①(パフォーマンス課題)	○態①(行動観察)	
	13		・年長児童の前で「働く乗り物クイズ大会」を開く。 生活科との関連				
五	14	振り返り	学習の振り返りを行う。			◎態①(行動観察)	

※指導に生かす評価を行う代表的な機会については「○」を、その中で特に学級全員の児童の学習状況について総括の資料にするために記録に残す評価を行う機会には「◎」を付けている。

5 本時の学習（本時9／14）

（1）本時の目標

図鑑のポンプ車のページの内容を読み取り、「役目」、「つくり」、「できること」をカードにまとめることができる。

【思考・判断・表現】

（2）学習の流れ

	学習活動 (○主な発問・予想される児童の反応)	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
つかむ	<p>1 本時の学習が、パフォーマンス課題とどう繋がっているかを知る。</p> <p>2 ポンプ車の写真を見て、役目、作り、できることを予想させる。 比較する</p> <p>3 めあてをつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>ずかんから ポンプ車の やく目、つくり、できることを みつけてのりものカードをつくろう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> パフォーマンス課題とのつながりを確認する。整理の仕方について見通しをもたせる。 ポンプ車の写真をタブレットを使って見せ、消防艇と比較してイメージをもたせる。 	
	<p>4 図鑑のポンプ車の部分を読み取る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>ポンプ車 火じが おこると まっ先に 出どうして、水で火を けす ポンプ車。しょう火せんや ぼう火水そう、いけなどから ポンプで 水を すいあげ、ホースから いきおいよく ふきだして 火を けします。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ポンプ車のことが書かれている部分を見付けさせ、読ませる。 	
考える	<p>学び合い①自分の考えをもつ</p> <p>5 ポンプ車の文章から大切な言葉を見付けて付箋に書く。 関連付ける</p> <p>6 見付けた言葉を「役目」、「つくり」、「できること」に分ける。 関連付ける</p> <p>○見付けた大切な言葉は、「役目」、「つくり」、「できること」のどこに入るでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「ポンプ車」だから、「ポンプ」や「ホース」は「つくり」になりそう。 「火をけします」のところは、「できること」 	<ul style="list-style-type: none"> 分からない言葉を見付けさせ、図鑑の絵を使って理解を促す。 <p>学び合い②関連付けながら思考する</p> <ul style="list-style-type: none"> 本文の大切だと思うところに○をつけさせる。 役目とつくりとできることの間を深く読み取らせるために、写真と文を関連付けて、大切な言葉を読み取らせ、選んだ言葉を付箋に書かせる。 「役目」だと思うところを赤色、「つくり」を緑色、「できること」を青色の画用紙に付箋を分ける。 「役目」、「つくり」、「できること」の間を深く読み取らせるために、写真と文を関連付けて、大切な言葉を読み取らせる。 	

深める	<p>学び合い③考えを広げたり深めたりする</p> <p>7 ペアで話し合う。</p> <p>8 話し合ったことを全体で共有し、全体で乗り物カードを完成させる。 比較する</p>	<ul style="list-style-type: none"> どんな風に分けたかペアで見せ合わせ、どうしてそう分けたのか理由も言わせる。 図鑑から分かったことを発表させ、図鑑の文や、絵を指さしながらみんな意見进行交流する。 消防艇の乗り物カードと比較して共通点や相違点を見付けさせ、乗り物カードを完成させる。 	<p>図鑑の文から、「役目」、「つくり」、「できること」を見付け、カードにまとめています。 【思・判・表】(乗り物カード)</p>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>①やく目 かじの 火をけすための車。</p> <p>②つくり ポンプやホースがついている。</p> <p>③できること しょう火せんや、ぼう火すいそう、いけなどから水をすいあげ、火をけす。</p> </div>		
振り返る	<p>9 本時のまとめを行う。</p>	<p>ずかんから たいせつなことをさがすと カードがかける。 わからないときは、えと ぶんを つなげてかんがえる。</p>	
	<p>10 振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習を振り返り、パフォーマンス課題と関連付けて、どうすれば分かりやすい乗り物カードができたか振り返りに書かせる。 	

6 板書計画

③ずかんから たいせつなことをさがすと カードがかける。わからないときは、えと ぶんを つなげてかんがえる。

③ずかんから はたらくのりもの やく目、つくり、できることを みつけて のりものカードをつくらう。

いろいろな ふね